

【成果概要】2-4 気候変動による節足動物媒介感染症リスクの評価

調査結果の概要

■ 平成30年度の成果

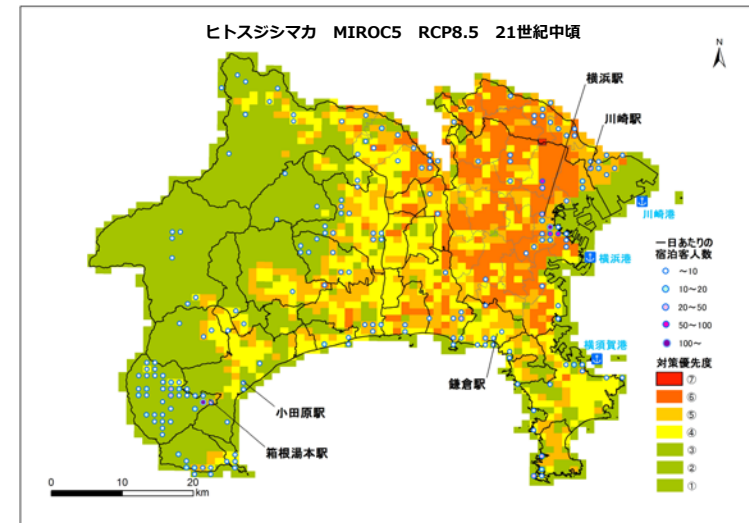
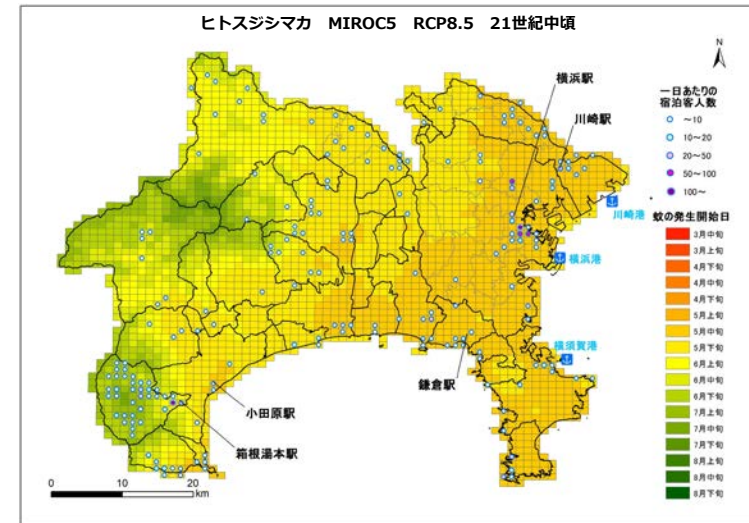
- デング熱を媒介するヒトスジシマカとウエストナイル熱を媒介するアカイエカの2種類の蚊を対象に、成虫の「発生開始日マップ」と「対策優先マップ」を試行的に作成した。
- 気温上昇により、両蚊成虫の発生開始日は早期化する可能性が示唆された。また、蚊が生息する緑地と、蚊に曝される人の多さの観点も考慮すると、21世紀中頃にかけて優先的に適応策を検討しなければならない地域が増加することが分かった。

■ 明らかとなった課題

- 蚊媒介感染症ウィルスは港湾や空港からウィルスを保有する蚊や感染症患者の流入により広まることが想定される。流入した感染症患者の移動を予測することは困難であるため、国内のどの地域で感染症が発生・拡散するかを予測することは困難である。
- 平成30年度に作成した発生開始日マップや対策優先マップにより、蚊成虫の発生後の広まり方や、優先的に対策すべき地域を想定することが可能である。具体的な対策は、その地域内の土地利用や人の移動を考慮した上で検討する必要がある。

■ 平成31年度の調査計画

- ヒトスジシマカ・アカイエカ成虫の発生開始日マップ、対策優先マップの作成(関東地域)
- 対策の優先度が高いメッシュにおける具体的適応策の検討(神奈川県)



ヒトスジシマカ成虫の発生開始日マップ(上)、
対策優先マップ(下)のイメージ
(21世紀中頃、MIROC5モデル、RCP8.5シナリオ)
パシフィックコンサルタンツ株式会社作成